

## 脳神経外科

### 研修の目標

脳神経外科領域の疾患は救急処置を要する重症例が多い。脳神経外科の第一線の医療現場において迅速な診断、適切な治療方針の選択、適切な処置を行うため、脳神経外科領域の疾患の病態を理解することが必要である。さらに基本的手術手技の修得を目標とする。

### 研修の課程

(1) 脳神経外科疾患の診断法を修得する。

- ①問診法を理解し、病歴記載ができる。
- ②神経学的診断ができる。
- ③頭部・頸部・胸部単純撮影を読影できる。
- ④脳血管造影ができ、読影ができる。
- ⑤頭部・頸部のCTとMRIが読影できる。
- ⑥脳波を解析できる。
- ⑦RI検査を読影できる。
- ⑧腰椎穿刺ができる。
- ⑨血液検査、髄液検査、尿検査の診断ができる。
- ⑩神経病理、特に脳腫瘍の病理診断ができる。

(2) 脳神経外科疾患の治療法を修得する。

- ①神経疾患の病態を正しく診断し、治療方針が選択できる。
- ②脳神経外科手術の特異性を理解している。
- ③脳神経外科手術の周術期管理ができる。
- ④穿頭術（慢性硬膜下血腫手術、脳室ドレナージ術、VPシャント術、定位的脳内血腫除去術）を修得している。
- ⑤開頭術・閉頭術を修得している。
- ⑥頭部外傷の手術（陥没骨折整復術、急性硬膜下血腫と急性硬膜外血腫の血腫除去術）の助手ができる。

### 評価方法

自己評価、指導医評価を3段階で行う。